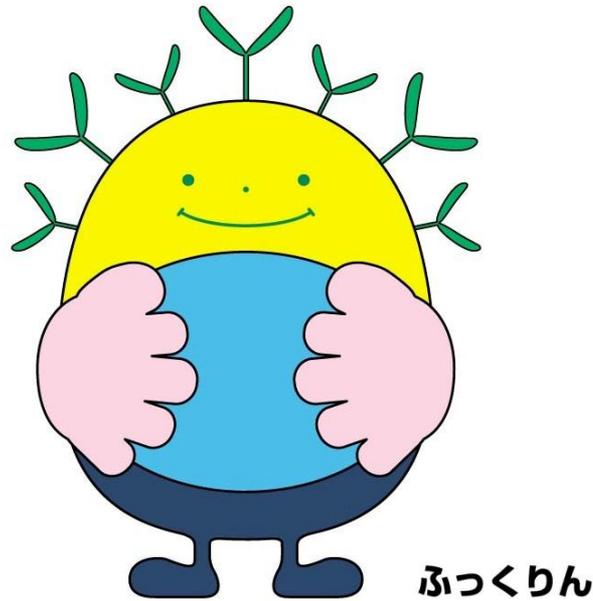


# 平成27年度 森づくりの状況・施策の実施状況



県産材活用課・森づくり課

# 目 次

	ページ
1. ふくいの森林・林業基本計画(概要)	1
2. 計画の目標(目標年度:平成31年度)	3
3. 平成27年度の取り組み	
① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト	4
② ふくいの木80万本活用プロジェクト	6
③ ふくいの里山100宝山プロジェクト	8
④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト	10

# ふくいの森林・林業基本計画(概要)

## ① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト

山ぎわを中心に間伐を進め、低コスト化により県産材の生産量を倍増する

県産材生産量 116千 $\text{m}^3$  → 195千 $\text{m}^3$

### ○ 山ぎわでの間伐を進める

- ・山ぎわ間伐を推進（間伐材搬出拡大、美しい景観創出）
- ・集落ぐるみで取り組むコミュニティ林業を拡大
- ・GPSを活用して間伐の前提となる森林境界の管理を促進

### ○ 生産コストを下げる

- ・県有林と民有林等の一体化による新たな木材生産団地「県民共働の森」を設定
- ・林内路網1.5倍の整備と高性能林業機械の導入促進
- ・低コスト搬出技術の開発（機械メーカーとの共働）

### ○ 流通コストを下げる

- ・A、B、C材に選別し、効率的に出荷するための「ウッドターミナル」等を設置
- ・「ウッドターミナル」等から需要先へ直送

### ○ 県有林(旧公社林等)からの供給を拡大する(木材収入の拡大)

- ・列状間伐の導入等による低コスト化
- ・民間活力を活かした新たな委託方式の導入

### ○ 森づくりを担う人材を育成する

- ・競争力のある民間事業体の育成（森林組合との連携強化や低コスト搬出技術の習得等）
- ・「ふくい林業カレッジ」を設置し、林業の専門知識を有した若い世代の人材を確保
- ・フォレストワーカーやフォレストプランナーを確保・育成
- ・経営意欲の高い林家の育成

## ② ふくいの木80万本活用プロジェクト

住宅・オフィス・街並みづくりや木質バイオマス発電などで県産材をフルに活用する

住宅での県産材使用率 36% → 50%

### ○ 県産材製材品の競争力を高め利用を拡大する（A材）

- ・工務店が求める人工乾燥材「福井ドライ材」の供給を拡大
- ・「ふくいブランド材」および「福井ドライ材」を工務店のニーズに応じ安定的に供給

### ○ 住宅での県産材の利用を50%に拡大する（A材）

- ・川上から川下までが連携した家づくりの推進
- ・県産材あふれる街並みづくりの推進(住宅団地やパブリックスペースでの利用を促進)

### ○ 新たな分野での利用を開拓する（A材）

- ・1企業1木質化運動の展開(民間企業での利用拡大)
- ・マンション、オフィス家具等での利用開拓
- ・新たな工法による中大規模施設の木造化・木質化(CLT・トラス梁工法)
- ・県産材の活用創出等に対する表彰制度の創設
- ・県外や海外へ向けて県産材の販路を開拓

### ○ 合板、集成材での利用を拡大する（B材）

- ・生産、流通の低コスト化による合板、集成材での需要の安定化

### ○ 木質バイオマスでの利用を拡大する（C材）

- ・木質バイオマスの発電での利用に加え地域での熱利用を推進

# ふくいの森林・林業基本計画(概要)

## ③ ふくいの里山100宝山プロジェクト

林地残材や薪、特用林産物など森林資源を活用し、里山におけるビジネスを創出・拡大する

特用林産物の新たな品目等の生産拡大 10品目以上

### ○ 特用林産物を振興する

- ・地域ならではの新たな品目・商品の開発や施設整備による生産拡大(菊炭、ジャンボしいたけ、サマツ、椿油、薬木、マイタケ等)
- ・全国に誇れる本県の特用林産物の生産技術を後世に残すため、伝統技術を継承(くず、オウレン、うるし、コウゾ・ミツマタ等)

### ○ 「山の市場」で林地残材等を販売する

- ・林地残材等を自伐林家が生産・収集・販売する場の整備

### ○ 里山をエネルギーとして利用する

- ・園芸施設等で木質バイオマスを利用し里山資源を活用

### ○ 都市部から里山へ誘客する

- ・オーベルジュやオーナー農園など里山の魅力を活かし、都市部との交流を促進
- ・福井平野を一望でき、山や史跡等を巡る作業道等を活用したトレイルコースの設定や、森林浴など里山資源を活用した体験活動の推進

## ④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト

奥山での針広混交林化など次代につながる森づくりを進める  
県民が森や花に関わる運動を拡大・強化し、緑や花に親しむ人を増やす

奥山での針広混交林化	26ha	→	900ha
県民運動参加者数	4万9千人	→	6万人

### ○ 県有林(旧公社林等)など奥山の人工林は針広混交林化等を進める

- ・列状間伐等により針広混交林、広葉樹林に誘導

### ○ 災害・獣害・病虫害に強い森づくりを進める

- ・治山施設や森林整備の一体的な実施を推進
- ・森林組合のシカの個体数管理への参画や抵抗性アカマツの植栽等を推進
- ・獣害軽減につながる山ぎわでの間伐や作業道等の整備を推進

### ○ 30年で利用できる有用樹種を選定する

- ・高成長な有用樹種を選定し、山ぎわでの資源の循環を促進(センダン・コヨウサン等)

### ○ 里山の景観を再生する

- ・里山において、雑木や侵入竹林の除去、花木の植栽等の景観保全対策を推進

### ○ 花粉発生源対策を進める

- ・スギ林の主伐を促進し、花粉の少ない森林へ転換するとともに、無花粉スギを作出

### ○ 緑と花の県民運動を永続的に展開する

- ・全国植樹祭を契機に展開している緑と花の県民運動を拡大・強化

### ○ 国体開催に向けた花いっぱい運動を拡大・強化する

- ・花によるおもてなしを推進するため、花いっぱい運動を拡大・強化

# 計画の目標（目標年度：平成31年度）

## ① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト

○ 県産材生産量	195,000 m <sup>3</sup> /年
○ コミュニティ林業	150 集落
○ 民県共働の森	50 箇所
○ フォレストワーカー	625 人
○ 間伐生産性	6 m <sup>3</sup> /人日

## ② ふくいの木80万本活用プロジェクト

○ 住宅1棟あたりの県産材使用率	約 50 %
------------------	--------

## ③ ふくいのに山100宝山プロジェクト

○ 特用林産物 新たな品目等の生産拡大	10 品目
---------------------	-------

## ④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト

○ 針広混交林化	900 ha
○ 緑と花の県民運動参加者	60,000 人

# 平成27年度の実施状況

## ① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト

コミュニティ林業については、集落の代表者等を対象にリーダー研修会(5地区)や全県下の活動報告会を開催し働きかけを進めた結果、20集落で木材生産組合が設立され、3万 $\text{m}^3$ の間伐材が生産されました。山ぎわでの間伐については、永平寺へ向かう国道沿いや熊川宿周辺国道沿いなどで実施しました。



コミュニティ林業取組状況  
(福井市高田町)



境界の確認  
(小浜市大谷)



山ぎわ間伐  
(若狭町熊川)

### ▼事業の成果▲

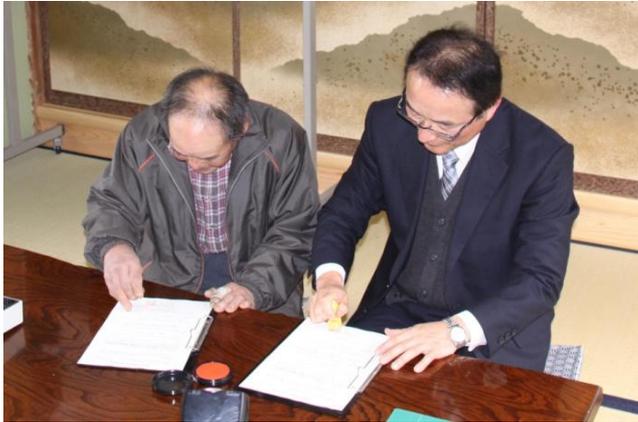
○ 県産材生産量	168,000 $\text{m}^3$ /年
○ コミュニティ林業	75 集落(20集落増)

# 平成27年度の実施状況

## ① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト

県有林と周辺の民有林を一体的に施業する木材生産団地「民県共動の森」を10か所設定しました。また、山から搬出された間伐材をA、B、C材に選別し効率的に出荷するためのウッドターミナル等を2か所設置しました。

高い技術力を有する人材を育成するため、高性能林業機械オペレータ研修や作業道開設研修、先進国(オーストリア)林業技術研修等を20回開催するなど、県産材生産の低コスト化を進めました。



民県共動の森 協定締結  
(越前町頭谷)



ウッドストック  
(坂井市坪江)



オーストリア林業技術研修  
(福井市城有)

### ▼事業の成果▲

○ 民県共動の森	10 箇所
○ フォレストワーカー	552 人
○ 間伐生産性	4 m <sup>3</sup> /人・日

# 平成27年度の実施状況

## ② ふくいの木80万本活用プロジェクト

住宅での県産材の利用拡大について、製材所が共働して設立した協同組合で人工乾燥機を整備し、一元的に乾燥を行った結果、去年の2割増となる柱材が生産されました。

マンション内装材については、デザイン性の高い7種類の部材を開発し、内覧会等でマンションオーナー等にPRしました。オフィス家具については、大手メーカーと共働で県産材による応接テーブルやパーテーションなど4種類を開発しました。



人工乾燥施設  
(越前町織田)



マンション内装材  
(福井市)



オフィス家具  
(県庁ホール)

▼事業の成果▲

○住宅1棟あたりの県産材使用率

40 %

# 平成27年度の実施状況

## ② ふくいの木80万本活用プロジェクト

本県で初めてとなる木質バイオマス発電施設が大野市に竣工しました。年間12万 $\text{m}^3$ の木材を燃料とし、発電出力7千キロワット、一般家庭1万5千世帯相当分を発電します。この施設の稼働により、新たな雇用が創出されるほか、これまで山に残さざるを得なかった間伐材(C材)の利用が可能となり、一本の木を余すことなく利用できる環境が整いました。



木質バイオマス発電施設  
(大野市七板)



間伐材 (C材) ストック状況



燃料用チップ

▼事業の成果▲

○間伐材生産量

122, 000  $\text{m}^3$

# 平成27年度の実施状況

## ③ ふくいの里山100宝山プロジェクト

ジャンボしいたけ(香福茸)の生産組合が設立され、3者が生産を開始しました。菊炭の炭窯整備、林業遺産に認定された越前オウレンの技術継承のための研修会開催、マイタケの生産・加工施設の整備にそれぞれ支援しました。

福井炭焼きの会が行う研修の開催を支援し、新たに炭焼きに取り組む人材の技術習得を進めました。くずについては、地元和菓子店と共働した新商品開発、漆器の表面研磨などに利用される研磨炭については、原料となるアブラギリの調達に支援するなど、伝統技術の継承を進めました。



イメージ

ジャンボしいたけ (香福茸)



熊川くず  
(新商品：くずしるこ)



研磨炭

▼事業の成果▲

○特用林産物 新たな品目等の生産拡大

3品目

# 平成27年度の実施状況

## ③ ふくいの里山100宝山プロジェクト

山の市場については、池田町と福井市美山地区で運営を行う協議会が設立され、林地残材等の定期的な買取りが開始されるとともに、農産物や薪などを販売するイベントの開催により都市部等との交流も促進されました(池田町11月、美山地区3月)。

美しい自然景観や、歴史・文化を巡るトレイルコースを3コース設定し、マップの作成や、ルートや見どころを案内するスマートフォン用アプリを開発しました。また、「朝倉トレイルラン2015」などのイベントを開催し、約1,000名の参加者を集めました。



山の市場  
(池田町)



山の市場  
(福井市美山地区)



朝倉トレイルラン  
(福井市)

### ▼事業の成果▲

○山の市場の設置

2箇所

○トレイルコースの設定

3箇所

# 平成27年度の実施状況

## ④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト

県有林において列状間伐を154ha実施し、間伐の低コスト化を図るとともに、針広混交林化を進めました。

また、企業の森4か所において、広葉樹920本の植栽を行い針広混交林化、広葉樹林化を図りました。



列状間伐  
(越前町笈松)



企業の森による広葉樹の植栽  
(南越前町宇津尾)

▼事業の成果▲

○針広混交林化 263 ha(累計)(156ha増)

# 平成27年度の実施状況

## ④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト

花いっぱい運動推進員は、今年度、新たに87名を委嘱し、220名が地域での花の植栽や花壇づくりを行いました。また、花のスクールステイによる観光地への花の植栽や、三方五湖周辺でのコスモスの植栽など県内6か所(200ha)での花の拠点づくりを行いました。  
全国花のまちづくり大会を実施している(公財)日本花の会を訪問し誘致活動を実施した結果、平成29年度に本県での大会開催が決定しました。



花いっぱい運動推進員の活動  
(美浜町松原)



花のスクールステイ育成苗の贈呈  
(あわら市清間)



花の拠点づくり  
(勝山市野向町)

▼事業の成果▲

○県民運動への参加者数

52,892 人